

「ピラサ」とは、アイヌ語で「広げる」を意味する言葉です。

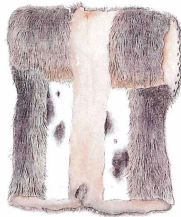
アイヌの人たちがかつて身に付けていた、けものや魚、鳥の皮、木の皮などのさまざまな材料を使った伝統的な衣服は、博物館等で見るすることができます。本号では、そうした伝統的な衣服に関するクイズを紹介します。

## アイヌ文化のクイズに挑戦 ～衣服編～

Q1

アイヌの人たちはかつて、ふだんの生活の中で、身近にある材料を使って、いろいろな衣服を作っていました。次の①～③の中で、魚の皮から作った衣服はどれでしょうか。

①ウルク



②カヤ



③チカプウル



Q2

アイヌの人たちはかつて、本州や外国から「もめのぬの」を手に入れられるようになると、そのぬのを使って、着物などを作るようになりました。その内、下の写真のような模様の着物を何といいますか。



- ①アットウシ
- ②レタラペ
- ③ルウンパ



◆クイズの答えは、裏面に掲載しています。

指導に当たって

### アイヌの人たちの歴史や文化等の理解を深めるための小冊子 「アイヌ民族を理解するために」

この小冊子は、次のテーマごとにアイヌの人たちの歴史や文化を分かりやすく文章と写真などで紹介したものです。

- 【テーマ】「人（ひと）」「言（はなす）」「衣（きる）」
- 「食（たべる）」「住（すむ）」「祈（いのる）」
- 「史（あゆみ）」

北海道環境生活部アイヌ政策推進室では、この小冊子を希望者に配付しています。（送料は着払いとなります。）

また、下記アドレスのWebページから、ダウンロードすることができますので、様々な場面で活用してください。

([http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/new\\_panf.htm](http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/new_panf.htm))

【問合せ】 北海道環境生活部アイヌ政策推進室 TEL 011-231-4111 (内線) 24-137



## 北の大自然とともに育まれたアイヌ文化を学ぶことのできる博物館等の紹介

北海道などに古くから住んでいたアイヌの人たちは、自然の豊かな恵みを受けて独自の生活と文化を築き上げてきました。

このアイヌ文化を身近に触れることのできる博物館等を、今号から順次紹介します。

### 北海道博物館（愛称：森のちゃれんが）

平成27年4月18日にオープンした北海道博物館は、北海道開拓記念館と道立アイヌ民族文化研究センターが一つになり、総合博物館として生まれ変わった施設であり、アイヌの歴史や文化に関する専門的な研究を行っている、世界に誇るべき総合博物館です。



総合展示では北海道の自然・歴史・文化を物語る5つのテーマが用意されており、北海道の過去・現在・未来について共に考え、語り合うことができます。

また、アイヌ文化の世界をテーマとしたコーナーでは、復元された昔の住まいや実際に用いられていた丸木舟の展示、アイヌ語や歌、踊り、楽器などを紹介する映像を見たり、アイヌの楽器である「トンコリ」を弾いたりすることができます。

〔アイヌ文化についての展示の一部 「北海道博物館Webページより」〕



〔復元された昔の住まい〕



〔アイヌの楽器「トンコリ」〕

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

〔TEL〕 011-898-0466 〔FAX〕 011-898-2657

〔休館日〕 毎週月曜日（祝日・振替休日の場合は直後の平日）、年末年始（12/29～1/3）

〔開館時間〕 9:30～17:00（5～9月） 9:30～16:30（10～4月）

〔Webサイト〕 <http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>

#### ◆クイズの答え

Q1 ②（①はクマの皮、③は羽のついた鳥の皮で作った衣服です）

Q2 ③（①はオヒョウなどの木の繊維、②はイラクサなどの草の繊維で作った衣服です）